

町連協だより

平成十年度

「道央ブロック町内会 活動研究協議会を終えて」

会長 矢島 渡

町連協は、明るく、楽しい、ふれあいのある「ふるさと」づくりをすすめております。昨年「住民総互のたすけあいシステムを考える」をテーマに平成十年度道央ブロック町内会活動研究協議会が、十一月十一日、十二日二日間にわたり、住民の相互扶助や自治的活動を主体的に行う地域的生活集団として、町内会の役割がますます重要視される反面、超少子、高齢化が進み活動の停滞が懸念されるなか、それぞれの自治体が抱える問題をもちよって、市内外から多くの参加者を得て、市文化センターで開催されました。四月開催が決定されてから暗中模索、どこから準備して



良いのか手さぐりの準備作業、しかし何よりも会員各位の理解と協力、そして実行委員の研究会を成功させようとする意欲、熱意が他自治体からの代表者に千歳市の存在感を示す唯一のチャンスと位置づけ、多くの皆様に好評を得た証左

と思っております。会員各位、そして実行委員皆様の協力に対し深く感謝申し上げます。町連協は、これを機に町内会が抱える諸問題について、研究協議会を実施して、その成果をもとに町内会の事業計画に反映して戴きたく思っております。そして町内会活性化のための一助となり、安心して住みよいまちづくりに精進して頂きたいと願っております。



第 4 号
平成11年3月1日
◆発行◆
千歳市町内会
連絡協議会
千歳市総合福祉センター
TEL(0123)27-2525
◆印刷◆
総合印刷
道央プリント
千歳市青葉6丁目1-8
TEL(0123)23-5535

特 集

町内会のご紹介

◆第二号より掲載している町内会の紹介を順次載せて行きたいと思っておりますので、あなたの町内会のユニークな活動をお知らせ下さい。

◆今回は五町内会をご紹介します。

「資源回収の取り組みについて」

千代田町連合町内会
推進委員
後藤田桂子

千代田町連合会の資源回収は、昭和六十年より始まり色々な経緯を潜り、現在は千代田町連合町内会の事業として行われて居ります。

千代田町は、駅前通りを中心に左右に商店、銀行、ホテル、一般の会社、そしてNTT大きな企業が多く、居住者は限られ、又町内会会館が中心街コミセン(エスプラザ3F)にあるため、資源物は一ヶ月の間、各家庭に保管し、回収日に各自が指定の場所へ持って来ます。一、二、三丁目、ビートル一〇一駐車場、四丁目は北新電気前、五、六丁目は山本リサイクル前に、市の集収時間が早朝のため、小雪がちらつき凍てつく中、



参加者全員で梱包の点検、空缶の指定の袋入れ、その他の作業を行います。又自家用貸物車で各町内会の家庭を廻って下さる方がおり、これ等はすべて会員の協力なしでは出来ません。最近では過疎化が進み、若年者の居住者の減少がこの活動を如何にして継続していくかが、今後の課題ではないでしょうか。

又、アメリカのシアトル市やドイツのフライブル市の様に生産者、消費者の徹底した資源の回収がゴミの減量になり、そして再生品の活用を取り入れることが大切なことと思いません。これからも町内活動に参加して下さる方々の健康を留意しながら協力し合って資源回収をし、限りある資源を有効に活用したいと思いい活動しています。毎月協力をしていたいただいています企業、銀行ホテル、そして町内会会員の皆様ありがとうございます。今後共をよろしくお願いいたします。

環境美化の

取り組みについて

朝日町西自治会

総務部長 朝野 弘

私達朝日町西自治会の環境美化の取り組みは昭和三十年自治会発足と同時に活動をはじめました。当時は、下水設備もなくママチ川は「ごみ捨場」と化し悪臭が漂い衛生環境上最悪の状況にありました。この状況からママチ川の清掃を手始めに環境美化が自治

会会員の総意によりはじまりました。昭和五十四年「ママチ川をきれいにする会」を周辺八町内会で結成して、川の清掃河川敷に花壇を設置、市の花「花菖蒲」を育成するなど当時の会員が率先し取り組み「花いっぱい運動」に参加することになりました。

現在は下水道が完備し衛生環境も整い快適な地域環境となり「ママチ川公園」の完成も間近で環境は益々良好となっております。

これも偏に関係役員の活動と会員皆様のご協力の賜と深く感謝しているところであります。

わが自治会の特色としては毎年の川掃除にあたり、作業修了後昼食会を兼ねた懇親会を設け慰労と親睦を図っております。ご多聞に洩れずわが自治会も過疎が進み高齢者世帯が約七割を占め、年々自治会活動への参加は減少の傾向にあります。が常統不断の啓蒙を図り折角続いた、「花いっぱい運動」の上位入賞を目標に今年も会員皆様の支援・協力を得て清流ママチ川と大通り並木花壇の整備活動に

汗を流して行きたいと計画しています。

次いで、現在一番の問題点は「ゴミ収集所」周辺の清掃収集日の徹底と分別収集の徹底と思われまます。

分別収集も二年を経過し殆どの世帯がその徹底を図り努力しているにもかかわらず、ごく一握りの世帯の心ないゴミの不法な排出等があります。あらゆる機会をとらえて啓蒙してまいりたいと考えております。

新年度はリサイクル運動・資源回収をさらに徹底してゴミの減量を時間をかけて進め参りたいと思えます。

自治会環境が高齢活動家の減少の傾向にあります。が、適時適切な語り合いの場を設けて理解を得て、環境の美化を向上させて行きたいと願っています。

各町内会におかれてはそれぞれ創意工夫され素晴らしい成果を収められておられることと存じます。何卒ご助言・ご指導を下さいますようお願いしてわが自治会の環境美化の取り組みの報告とさせていただきます。

「信濃楽友クラブ」の

活動状況

楽友クラブ

副会長 山口イサ子

一、会員の目的

会員相互の親睦を図るとともに、健全にして豊かな楽しい生活を送ることを目的とする。

二、事業内容

- ① 健康づくり
- ② サークル活動の推進
- ③ 奉仕活動に参加

以上の三点を主体として事業を進めております。ただし、奉仕活動は、サークル活動及び事業の延長線の範囲において実施しております。

三、年間を通しての活動

(一)例会月二回(第二、第四)月曜日)毎回四十七名の参加



(二)心と身体の健康づくり

(1)市の健康保険課から担当者を招き、年一回の講話を聞いております。

(2)例会には、全員で、「イキイキ体操」を実施。

(3)ゲートボール大会の参加

(4)パークゴルフ大会

年二回実施

(5)歩こう会青葉公園年二回実施

(6)ダンス、日本舞踊、カラオケ、コーラス、お楽しみ会、囲碁、麻雀を毎週計画。現在参加者増加中。

(7)「楽友クラブだより」の発行、昨年度からサークル活動の推進強化を図るため、年三回クラブ活動の状況を会員に伝達しております。

四、教養、研修

(1)市消防署から担当者を招き、年一回防火に関する講話及び実技指導を受講をしております。

(2)日帰り旅行のほか、春は二泊三日、秋は三泊三日の研修旅行を実施。毎回参加者は四十名前後になっております。

五、会員の福利厚生

(1)会員の病氣入院の場合は、見舞いと合わせて会の近況も

お伝えしております

(2)米寿、白寿の会員には、長年のご苦勞と、長寿のお祝として、記念品を贈呈しております。

六、社会奉仕

(1)町内三か所の公園管理、草刈り清掃、花壇づくり、公園使用期間中は、朝七時頃巡回見回りを年間延一五〇名で行っています。

(2)社会福祉施設の慰問。

千寿園北星館を訪問して、カラオケ、コーラス、舞踊、紙芝居等披露し、好評を得ております。

(3)子供と高齢者のふれあいでは、町内会の一環である子供盆踊り、秋祭り子供御輿の手伝い、年末の餅つき等に積極的に参加し、交流を深めております。

(4)最寄りの小学校の要請を受け、低学年の児童にお手玉竹とんぼ、あやとり、コマまわし、紙ひこうき等昔の遊びを指導して、子供とのコミュニケーションを図り、これが学校教育の一助ともなればと考え今後とも継続して参りたいと考えております。

ゴミの減量化とリサイクルの

取り組みについて

桂木一丁目町内会
婦人部長 松田 明子

二十一世紀を目前にして、二十一世紀を目前にして、経済、社会のシステムが大きく変わりつつあると感じます。深刻な経済状況の中で、「自分たちの地域をどうやって活性化するか」といろいろと、みんなで知恵をだしあい、快適に暮らせる街づくりをすることが、大切であると思っております。

当町内会は婦人部が、リサイクルに対する取り組みを、平成四年四月から始めました。当時の渡辺あゆみ部長、岸さんの努力により、公社と何度も話し合い、苦勞されたと聞いています。

平成四年七月十四日、「からぎ環境フェスティバル」を町内会館で行いました。

環境保全公社、消費者協会の協力をえて、実行できたことに感謝します。

環境保全公社、富田常務のお力添えを戴き、資源、リサイクルについて、町内会の皆さま



んと 機会をえて、平成四年八月二十四日、美タリサイクルセンター、清掃センター、王子製紙を見学、リサイクルに対する考えが深くなってきたように思います。特に白寿会の方々の協力には頭が下がります。

現在はダイオキシンの心配などがありゴミの減量化は、まだまだのように思います。生活環境についての情報は積極的な関心を持ち続けております。

二十一世紀にむけて、人間性豊かで、創造性にあふれたこどもたちが、充実した人生

1 年間200円の会費

会費額は、年200円です。年度途中の加入も同額になります。

2 最高200万円の見舞金

平成9年4月から死亡見舞金Bの10万円と軽傷事故一律5,000円の見舞金が新設され、見舞金がさらに充実しました。

種 類	支 給 額	条 件
死亡見舞金A	2,000,000円	活動中における外因・外傷の事故による死亡に対して支給 事故発生後180日以内に死亡の場合
死亡見舞金B	100,000円	死亡見舞金Aに該当しない、活動中の死亡に対して支給 事故発生後24時間以内に死亡の場合
後遺障害見舞金	限度額2,000,000円	後遺障害の程度により支給 事故発生180日以内に生じた場合
傷害見舞金	入院 入院日数1日につき1,500円 通院日数1日につき1,000円	90日を限度に支給
	軽傷事故	
医師の証明料	一事故5,000円を限度に実費支給	軽傷事故は証明が不要のため除く



道町連共済

を過ごせるような環境を提供できたらと、考えております。地域社会という全体の働きを高めていくため、家庭がいきいきと活力に満ちて、そして、多くの方々との出会いや心のふれ合い、家庭における親子の交流、町内会での「暖かい心」をかよわせることが大切ではないでしょうか。活発な活動を展開できますことを祈りつつ。

「自主防災会」

組織結成」する

白樺町内会

会長 高橋 登

阪神、淡路大震災から私達は多くを学びました。地域住民の自発的活動により被害発生を軽減した等貴重な教訓を得ました。

白樺町内会においても、予告無しにやって来る「招かざる客(災害)」に対する心構えを忘れず大震災の教訓を基に自分達の地域は自分達で守るとの認識をもち、防犯部が主体となり自主防災会組織結成に向け、関係機関の指導助言、防災資料等を参考に検討し一連の資料(規約、細則、組織図

を各戸に配布し理解を深めるようお願いしました。さらに意識高揚のため結成記念式を開催することになり、向陽台地区関係者、町内会の皆さん多数の出席のもと、記念式を挙行し認識を新たに結成の運びとなったところでございます。結成した自主防災会は、災害本部以下、情報班、救出、救護班、避難誘導班、給食班、給水班の五班編成とし、区長



が区内の状況を把握し本部、各班長との連絡調整の任に当たることになりました。今後は、防災訓練を実施し啓発活動を行い、一層の普及に努め、さらなる充実を諮つ

白樺町内会自主防災会組織図

災害対策本部	
本部長	白樺町内会 会長
副本部長	副会長
総務担当	総務部長
連絡調整担当	防犯部長

情報班	消火班	救出救護班	避難誘導班	給食給水班	区長
班長	班長 他	班長 他	班長 他	班長 他	6区長
7名	12名	17名	7名	16名	6名

- 情報班 …… 本部と常に連絡を密にし、必要事項を各班員に伝える。
- 消火班 …… 消火器等の器具点検及使用方法や消火技術の指導 火災が発生した場合、火災の拡大防ぐ初期消火を行う。
- 救出救護班 …… 人命を最優先する。救助要請により救助の指導に当たる。
- 避難誘導班 …… 避難指導を正確かつ迅速に指示し避難指導する。世帯、人員及び健康状態の確認、子供、高齢者の世話。
- 給食給水班 …… 炊き出しの実施、食料品、飲料水の確保、救援物資の受け入れ、配分を行う。
- 班長 …… 区内の状況を速やかに把握し本部、または各担当班長に通報し、連絡調整に当たる。

て行きたいと考えています。組織は出来たが内容が伴わなければ「絵に描いた餅」であります。訓練を通じて活動の流れを充分習得し災害時に対応できる体制を整えたいと思います。災害発生の場合初期活動が大変重要であり、一番身近な町内会組織が対応することが大事であります。災害の場合、ライフラインの確保が困難となります。また救援隊も全市の活動のため必ずしも完全な救援を望めな

い場合も充分考慮し対応しなければならぬと考えます。自分達の地域は自分達で守るといふ基本的立場で活動する事であると考えます。課題として、近隣関係が希薄になつていするため災害発生の場合は、隣近所が連帯意識のもとに協力し合い活動しなければなりません。気軽に話し合える環境作りを積極的に進め、独立感をなくし普段のおつき合いの中で家族構成等をお互いに確保し合うことが

編集後記

道央ブロック各地域町内会会員が一堂に会しての活動研修会が多の成果を収めました。改めて各町内会が抱える諸問題について、各々が真剣に取り組み、問題解決に努力されていることを痛感しました。第四号の町連協だよりの発行に当たり、限りある紙面の中で如何に充実した内容をと、これからも検討、努力して参りたいとおもいます。ご寄稿、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

人身を伴う災害には大事であります。平日は子供さんと高齢者が主であり、災害発生時には如何に対応するべきかを早急に検討する課題であると考えます。

向陽台防災組織に市より防災セツトが貸与され同地区の町内会として心強く感じております。私達組織も器具、器材を整備し災害時に備えたいと考えています。

編集委員

- 小司 統
- 鳴海二郎 篠山裕之
- 小竹武雄 水野敏和
- 高橋英三 蔭 唯男
- 事務局 豊満昌治